

岡山県国際理解教育研究会のみなさま

コロンバス日本語補習校

副校長 船曳 文洋

(元岡山市立御津小学校校長)

### ① 保護者立の学校 運営の主体は保護者＝日本語補習校

シニア派遣教員としてオハイオ州コロンバス日本語補習校に着任して一年が過ぎました。延長がなければアメリカの任期はあと一年。激動の一年間を振り返って頑張った自分を褒めたい気分です。任期が二年間と言うのはあまりにも短くて仕事への工夫とか改善ができにくいと感じています。補習校の運営は、派遣教員と事務職が火曜日から金曜日まで事務所で授業の準備をします。配付物から出席簿に至るまで自前の校舎がないので借用校に運び込む準備です。土曜日が授業日なのですが、子どもたちの歓声を聞くと苦労は飛んでしまいます。先生方は一般企業に勤めていたり、主婦だったりですが土曜日は担任として教壇に立っていただいています。授業の準備や研究で大変な努力をされている姿にいつも感謝しています。保護者から選ばれた(たいていはくじ引きですが)理事会の方々も土曜日には学校でサポートをさせていただきます。

その他保護者の役割として、安全担当は施錠した入口の管理や養護の仕事、図書係りは図書館の運営、クラスペアレントは担任補助、スクールバスの停留所にも係りが送迎に出させていただきます。保護者立の学校なので、補習校では理事活動や係り活動ができることが入学許可の条件です。



### ②すごいぞ！子どもたち

一年間で一番びっくりしたのは、学校行事の練習がほとんどない事です。入学式、卒業式、運動会など、ほぼ全部の行事の練習と呼べる時間の確保はありません。卒業式や運動会など会場に入るのは本番の日が初めてです。こんなふうにやるんだよと別の体育館や教室で説明を一回やっただけで、担任も子どもたちもすごく立派にやり遂げます。入学式のピアノ伴奏の子どもと指揮者の顔合わせも初めてなんて想像できませんよね。でも一番ドキドキしていたのは実は私だったかもしれません。来賓の方が配偶者同伴だったのも新鮮な驚きでした。予備の席と記念品準備してよかった！

日本での経験を振り返って、あれだけ準備や練習を繰り返していたのは何だったのかなと感じました。子どもの力をもっと信じてやればよかったのか、お辞儀の仕方の練習になにか意味があったのか・・・なんて回想しています。

限られた時間をいかに有効に使うか、常に優先順位を考えて計画を立てること、反省をきちんとやって次回に反映させること、与えられた条件下で先生方に力をふるっていただける環境づくりを整えることなどが補習校派遣教員の使命だと再認識しました。

### ③ 余暇を楽しむ

一年目は、余暇を楽しむ余裕もなく、近回りを日帰りで楽しんでいましたが、今年の夏休みは思い切って大陸横断にチャレンジしました。シカゴからサンフランシスコまでアムトラックの寝台特急で52時間。延々と続く大陸の風景と寝台特急の贅沢な旅を堪能しました。社会科教員としては見どころ満載の旅でした。



現地採用の先生方と

岡山県国際理解教育研究会のみなさま

コロンバス日本語補習校

副校長 船曳 文洋

### ①家庭生活の確立

オハイオ州コロンバス日本語補習校に着任して3か月が過ぎようとしています。壮行会では、会長はじめ皆様からあたたかい励ましの言葉をいただきありがとうございました。とりあえず、着任当初のドタバタを含めて最初の報告させていただきます。

シカゴ、オヘア空港の入国審査で引っかけた混乱を乗り越え（指紋認証ができず別室で事情聴取されました）、着任3日目に学校職員と初対面し、その日が始業式と入学式という超ハードな日程でのスタートでした。もちろん家は契約前でホテル住まいでの勤務開始です。

翌週からは車がないと生活できないので、ナンバー取得、保険加入、ID取得など、本務と関係ない、家庭生活を確立するためのドタバタ生活でした。アメリカでは、9.11以降セキュリティ強化が厳しいようで、SSN（ソーシャル・セキュリティ・ナンバー）を取得しないと銀行口座も免許も取得する事はできません。オハイオ州の法律では国際免許は有効期限が3か月。口座がないと手当も送付してもらえません。毎日の仕事と並行しながらいろいろな手続きに忙殺された最初の一か月でした。

SSNが取得でき、免許を手に入れると生活は一転しました。免許証（ID）があると、どこに行ってもストレスなく手続きも可能になります。生活に余裕ができると、学校の仕事も見えてきて、今では何とかアメリカ生活を楽しむ余裕も出始めました。

### ②学校勤務の本格化

補習校の仕事は、みなさんご存知のように、火曜日から金曜日は事務所で下準備をし、土曜日に授業を行います。

コロンバス日本語補習校は児童生徒数570名程度、文科省の派遣教員は二名なので、校長は幼稚園から小学校5年生までの校舎（グランビー小学校）を担当し、副校長の私は6年生から高校生までの校舎（マッコード中学校）を担当しています。

職員が顔を合わせるのは、土曜日の朝なので、私が作る朝会資料がその日のすべての連絡事項を記入した情報源となります。学校からの配付物、回収物、編入生・退学生情報、係り会開催場所、朝会担当職員、図書当番、休み時間安全担当者 etc. これを間違いなく作るのは至難の業です。

現地採用の教頭先生や学部主任の先生の助けがないと絶対にできません。しかも、教頭先生はじめ教職員は平日には自分の仕事をしているので、連絡はメールだけなのです。先日二日間メールを開かないと未読メールが150件たまっていました……。情報の共有こそが学校の生きる道なのです。日本でできていた立ち話が実はとっても大切なコミュニケーションだったことを思い知りました。

メールは手間はかかりますが、一方で記録に残るので読み返して再確認できる便利さも最近感じ始めました。

現地採用の先生方は、とても研究熱心で6月からは研究授業も開始しました。指導案作成から授業・反省会まで熱心に討議し、より良い授業づくりに取り組んでいる姿勢は日本に比べてそんな色はありません。

子どもたちも、学校ではいきいきと学び、遊んでいます。月曜日から金曜日まで英語漬けの現地校授業から解放され、思いっきり日本語でしゃべることができる環境を楽しんでいるようです。放課後のサークル活動も熱心に取り組み、少ない授業日数の中から、遠足、修学旅行、学習発表会などの行事も行われています。

とりあえず、第一回の報告はこれくらいにして先生方のご活躍をオハイオの青空のもとでお祈りしています。



運動会



中3修学旅行